

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P002012        |
| 講義名      | アスレティックトレーナーの役割 |
| 講義開講時期   | 前期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 2               |
| 科目分類・分野名 | 総合領域            |
| 科目ナンバリング | GE-1219         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 選択              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀(理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)  
 中尾哲也(理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)

#### 目的

スポーツの現場では様々な職種の間が携わっているが、その中でも特にアスレティックトレーナーの役割について講義を行う。世界各国のアスレティックトレーナーの起源や歴史的背景、選手を取り巻くサポートスタッフとの連携、組織運営と管理、倫理規定などを学習することにより、アスレティックトレーナーが担うべき任務や役割・業務について理解を深めることを目的とする。

#### 到達目標

アスレティックトレーナーの活動内容を理解し、理学療法士との接点を見出すこと。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. アスレティックトレーナーとは (吉田)
2. スポーツ外傷・障害の予防 (吉田)
3. スポーツ現場における救急処置 (吉田)
4. アスレティックリハビリテーション① (吉田)
5. アスレティックリハビリテーション② (吉田)
6. コンディショニング① (吉田)
7. コンディショニング② (吉田)
8. 測定と評価① (中尾)
9. 測定と評価② (中尾)
10. スポーツ競技の特徴とAT① (中尾)
11. スポーツ競技の特徴とAT② (中尾)
12. メディカルチェック・フィットネスチェック (中尾)
13. 医科学スタッフとの連携・協力 (中尾)
14. コンディショニング 評価シートの作成 (中尾)
15. ATの倫理 (中尾)

#### 成績の評価

定期試験の結果により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

スポーツ現場でのトレーナーとしての考えについて教授するため、スポーツのルールまた基本的な解剖学、生理学の知識を学習しておいてください。加えて多くのスポーツに触れて、積極的にスポーツ現場を見学することで本授業への関心を深めて学習してほしい。授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本講義を受講しても日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格の認定単位とはなりませんので注意してください。

テキスト

資料を配布します。

参考資料

「日本スポーツ協会公認テキスト①  
アスレティックトレーナーの役割」(文光堂)

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00 (吉田)

月曜日~木曜日の12:30~13:00 (中尾)

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719号室 吉田隆紀・t.yoshida@kansai.ac.jp

4号館7階 D719号室 中尾哲也・nakao@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P003013        |
| 講義名      | アスレティックトレーナー概論Ⅰ |
| 講義開講時期   | 前期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活           |
| 科目ナンバリング | GE-1217         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 選択              |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 木村 範子 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

木村 範子〔はり師・きゅう師、アスレティックトレーナー〕

#### 目的

本講義時では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学びます。生死に関わる現場に遭遇した場合、チームや遠征にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的です。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題を行います。

#### 到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。将来に向けてのビジョンについて具体的に考えることができる力の取得。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. 自己紹介・救急処置（CRP/AED）①
2. 救急処置（CRP/AED/RICE）②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理②
4. アスリートの内科的障害と対策①
5. アスリートの内科的障害と対策②
6. アスリートの外傷・傷害と対策①
7. アスリートの外傷・傷害と対策②
8. アスリートの外傷・傷害と対策③
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法①（ストレッチング、icing）
15. コンディショニングの手法②（テーピング、マッサージ）

#### 成績の評価

定期試験にて成績評価します。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

## 履修上の注意

はり灸・スポーツトレーナー学科、ヘルスプロモーション整復学科では資格試験受験のために必要な科目になっています。学科によって異なるので注意して下さい。

## テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

## オフィスアワー

### 金曜日

2限後の昼休み、3限終了後～（講師控え室）

金曜日しか関西医療大学に来ることが出来ないの、何かあれば上記の時間に御願います。特にアポイントメントが無ければ3限終了後は大学を出ます。また、授業のある日以外は大阪体育大学にいますので、急用の際はメールをください。

## 研究室・授業用E-mail

大阪体育大学

kimura18-n@ouhs.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P004013        |
| 講義名      | アスレティックトレーナー概論Ⅱ |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活           |
| 科目ナンバリング | GE-1218         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 選択              |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松本 小葉 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

松本小葉（はり師・きゅう師、アスレティックトレーナー）

#### 目的

本講義時では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学びます。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされます。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されています。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的です。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指します。

#### 到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理（技能の練習と指導）
4. コーチングの心理（プレーヤーの個人指導と心理的問題）
5. コーチングの心理（チームの指導と心理的問題）（コーチング評価）
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント
12. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任②
14. スポーツと人権
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験にて成績評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

はり灸・スポーツトレーナー学科、ヘルスプロモーション整復学科では資格試験受験のために必要な科目になっています。学科によって異なるので注意して下さい。

テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

|          |            |
|----------|------------|
| 講義コード    | 1P012013   |
| 講義名      | スポーツコーチング論 |
| 講義開講時期   | 前期         |
| 講義区分     | 講義         |
| 基準単位数    | 1          |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活      |
| 科目ナンバリング | GE-1216    |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年  |
| 必修/選択    | 選択         |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 寺岡 祐助 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

寺岡祐助（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

#### 目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学ぶ。  
自身の将来を考え、指導者としての自己確立の重要性を学ぶ。  
上記を踏まえ、担当教員の現場経験を紹介し、自分がスポーツに関わる指導者となった場合、どのような対応するかを考えを深めることを目的とする。

#### 到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。  
自己確立の実施とその重要性を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自己とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

#### 成績の評価

授業内レポート（10%）  
期末レポート（90%）

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。

#### テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

#### 参考資料

「スポーツコーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで」（西村書店）

#### オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00

金曜日 13：00～14：30

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室

teraoka@kansai.ac.jp



|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P014014  |
| 講義名      | スポーツと健康   |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1209   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 相澤 慎太 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太（健康運動指導士）

### 目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

### 到達目標

健康・体力を管理する基本的な知識や方法を理解する。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 人間力／協調する力

### 授業計画

1. 健康とは何か？
2. 生活習慣病とは？
3. 体力とは何か？（体力テストについて）
4. 運動の仕組み①
5. 運動の仕組み②
6. トレーニング理論①（トレーニングの原理・原則）
7. トレーニング理論②（トレーニング計画）
8. トレーニング方法（レジスタンストレーニング）
9. 健康を維持・増進するための運動①
10. 健康を維持・増進するための運動②
11. ウォーミングアップ・クーリングダウン
12. 運動と水分補給
13. スポーツと心理
14. ストレスと疲労への対処法
15. まとめ

### 成績の評価

レポート50% 定期試験50%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

なし

参考資料

「健康・スポーツ科学講義」（杏林書院）

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室  
aizawa@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P023013  |
| 講義名      | スポーツ社会学   |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1215   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 中尾 哲也 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也【アスレティックトレーナー、アシスタントマネージャー】

#### 目的

スポーツ選手を支えてきた日本の文化（人・物・環境）を理解し、セラピストとして関われる方法や役割を考える基礎的知識を深めることを目的とする。

#### 到達目標

様々なスポーツシーンから、今後のスポーツへの関わり方を考えられるようにする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. ストレスコーピング・ライフスキル、運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン
2. フィギュアスケート男子
3. スポーツタレント発掘事業、スポーツ基本計画
4. 柔道
5. スポーツの概要と歴史（共通科目Ⅰ P.36～43）、文化としてのスポーツ（共通科目Ⅰ P.44～52）
6. フェンシング
7. 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり（共通科目Ⅰ P.149～158）、総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義（共通科目Ⅰ P.159～166）
8. 車椅子テニス
9. 社会の中のスポーツ（共通科目Ⅱ P.13～20）、総合型地域スポーツクラブの育成と運営（共通科目Ⅱ P.78～86）
10. フィギュアスケート女子
11. 日本スポーツ振興センター、国立スポーツ科学センター、ナショナルトレーニングセンター
12. サッカー
13. クラシックバレエ
14. ゴルフ
15. 陸上競技（短距離）

#### 成績の評価

各講義後のレポート内容により評価する。レポートには、その日に行われた講義の内容と感想を記載することとする。

|   |
|---|
| 定期試験、レポート等に対するフィードバック   |
| 提出されたレポートは、次の講義で返却する。   |
| 自己学習  |
| 授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。   |
| 履修上の注意  |
| 「日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー」、「日本スポーツ協会公認 スポーツプログラマー」、「JATI認定 トレーニング指導者」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。 |
| テキスト  |
| 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ」(日本スポーツ協会)   |
| オフィスアワー   |
| 月～木曜日 12:30～13:00   |
| 研究室・授業用E-mail   |
| 4号館7階 D719研究室 E-mail : nakao@kansai.ac.jp   |

|          |                  |
|----------|------------------|
| 講義コード    | 1P038012         |
| 講義名      | リハビリテーション概論      |
| 講義開講時期   | 前期               |
| 講義区分     | 講義               |
| 基準単位数    | 1                |
| 科目分類・分野名 | 保健医療福祉とリハビリテーション |
| 科目ナンバリング | P1-0301          |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年        |
| 必修/選択    | 必修               |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名       | 所属   |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 谷埜 予士次 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

谷埜予士次〔理学療法士〕  
 米田 浩久〔理学療法士〕  
 吉田 隆紀〔理学療法士〕  
 岩井 和子〔作業療法士〕  
 後藤 淳〔理学療法士〕  
 高木 綾一〔理学療法士〕

#### 目的

リハビリテーションの定義、歴史、理念および障害の分類について講義する。またリハビリテーションチームの役割と医療機関で行われている医学的リハビリテーションの具体的な方法と、社会や地域を含めた包括的なリハビリテーションの概念とその具体的な方法も講義する。障害学では現在並行して学習している「解剖学」「生理学」の知識をもとに、医学的リハビリテーションの対象となる機能障害についての理解を深める。

さらに、医療・福祉・保健領域におけるチーム医療の重要性と関連職種の業務内容についても解説し、理学療法士の役割を明確にさせることでキャリア教育を行う。

#### 到達目標

リハビリテーションの概要を把握し、理学療法士の役割を理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. リハビリテーションの定義、歴史、理念（米田）
2. リハビリテーション医学について（米田）
3. 国際障害分類と国際生活機能分類（米田）
4. リハビリテーションに携わる職種の役割①（高木）
5. リハビリテーションに携わる職種の役割②（後藤）
6. リハビリテーションに携わる職種の役割③（岩井）
7. リハビリテーションに携わる職種の役割④（谷埜）
7. 障害学①（谷埜）
8. 障害学②（谷埜）
9. 障害学③（谷埜）
10. 障害学④（吉田）
11. 障害学⑤（吉田）
12. 老人理学療法概論（米田）

- 13. 小児疾患理学療法学概論 (後藤)
- 14. スポーツ理学療法学概論 (吉田)
- 15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験80%、レポート20%で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「医療・保健・福祉におけるリハビリテーション」 (関西医療大学保健医療学部 理学療法学科 編)  
「臨床理学療法評価法」 (アイペック)

#### 参考資料

「入門 リハビリテーション概論 第6版」 (医歯薬出版)

#### オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00 (谷埜)

火曜日 12:00～13:00 (米田)

水・金曜日以外の12:10～13:00 (吉田)

金曜日 16:30～18:00 (岩井)

#### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室 (谷埜) tanino@kansai.ac.jp

4号館7階 D722研究室 (米田) yoneda@kansai.ac.jp

4号館7階 D719研究室 (吉田) t.yoshida@kansai.ac.jp

4号館7階 D718研究室 (岩井) k.iwai@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P042012  |
| 講義名      | 安全管理学     |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学   |
| 科目ナンバリング | P1-0408   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 高木 綾一 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

高木 綾一・加藤 祥子・井尻 朋人

#### 目的

リハビリテーション中に起こりうるアクシデントについて理解するとともにその際の対応について習得する。また、リハビリテーションは高度なリスク管理が必要であり、リスク管理を前提に理学療法を提供する必要性を理解する。

#### 到達目標

高リスクな利用者に対するリハビリテーションの在り方を理解する。  
 リハビリテーション中に医療事故を起こさない。  
 万が一が起こった場合には適切に対処できる。  
 これらの3点を到達目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. リハビリテーションと医療過誤（高木）
2. リハビリテーション中に起こりうるアクシデント（高木）  
 ー心停止、胸痛、脈拍異常、呼吸困難、意識障害
3. リハビリテーション中に起こりうるアクシデント（高木）  
 ー高血圧、てんかん、頭痛、めまい、腹痛
4. 転倒予防対策（加藤）
5. 理学療法と禁忌事項 I（加藤）
6. 理学療法と禁忌事項 II（加藤）
7. 医療安全と理学療法事例 I（井尻）
8. 医療安全と理学療法事例 II（井尻）

#### 成績の評価

定期試験にて行う。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

特に指定しない。

#### 参考資料

特に指定しない。

研究室・授業用E-mail

3号館3階理学療法教員室（高木）



|          |                     |
|----------|---------------------|
| 講義コード    | 1P047013            |
| 講義名      | 医学概論                |
| 講義開講時期   | 前期                  |
| 講義区分     | 講義                  |
| 基準単位数    | 2                   |
| 科目分類・分野名 | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P1-0201             |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年           |
| 必修/選択    | 必修                  |

### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 近藤 哲哉 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

近藤哲哉 [医師]

### 目的

医学史、現代における医療問題、開業後に必要な医療倫理を理解する。医療倫理については、生殖医療、パターナリズムとインフォームドコンセント、難病の延命治療、終末器医療の回で講義する。

### 到達目標

医学、医療に歴史、問題点や意義について自分なりの考え方をもち、問題意識をもって医療に携われるようになる。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 倫理に基づく行動力／専門知識

#### 授業計画

1. 西洋医学史（1）古代から近世
2. 西洋医学史（2）19世紀から現代
3. 東洋医学史（1）中国医学史
4. 東洋医学史（2）日本医学史
5. 最先端医学
6. 電磁気と医学
7. 戦争と医療
8. 宗教と医療
9. 生殖医療
10. 難病の延命治療、終末器医療
11. 臓器移植
12. パターナリズムとインフォームドコンセント
13. 胃瘻と人工呼吸器
14. 補完代替医療
15. 人口問題と医療

### 成績の評価

[1] 4択問題の問題集を講義中に配ります。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出します。(80点満点)

[2] 講義中に小テストなどを行い学習に対する態度を調べます。(20点満点)

以上を合計し、 点以上になれば合格です。追再試験は のみ行います。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出欠を確認する時刻に遅刻や早退などで不在な場合、欠席として扱います。

質問がある場合、挙手がCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

なし。

参考資料

なし。

オフィスアワー

月曜日9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟303

kondo0724538409@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P062011  |
| 講義名      | 運動療法概論Ⅰ   |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学   |
| 科目ナンバリング | P1-0402   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名       | 所属   |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 谷埜 予士次 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

谷埜予士次〔理学療法士〕

#### 目的

運動療法とは治療の一手段として運動を用いることであり、理学療法の主要な部分を占める。本講義では運動療法を理解するために、運動の必要性和効果について解説する。これらをふまえた上で、どのような運動療法があるかを理解する。

#### 到達目標

機能障害に応じた運動療法を理解し、運動することによって身体にはどのような影響があるのかを理解する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. 運動の必要性和効果
2. 運動とエネルギー代謝①
3. 運動とエネルギー代謝②
4. 運動とエネルギー代謝③
5. 運動と呼吸循環器系①
6. 運動と呼吸循環器系②
7. 随意運動と不随意運動①
8. 随意運動と不随意運動②
9. 全身調整運動
10. 関節可動域練習①
11. 関節可動域練習②
12. 筋力強化練習①
13. 筋力強化練習②
14. 感覚と運動
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験にて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。  
特に「人体の構造I」・「人体の機能I」の内容を復習をしておくこと。  
また、講義前・後で指定するプリントや教科書のページをよく読んでおくこと。

## テキスト

「基礎運動学 第6版補訂」(医歯薬出版)  
「運動器疾患の評価と理学療法評価」(アイペック)

## 参考資料

「運動療法学テキスト 第2班」(南江堂)

## オフィスアワー

月曜日 12:15~13:00

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室  
tanino@kansai.ac.jp

|          |              |
|----------|--------------|
| 講義コード    | 1P065023     |
| 講義名      | 英語表現法Ⅰ①      |
| 講義開講時期   | 前期           |
| 講義区分     | 講義           |
| 基準単位数    | 2            |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1302      |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年    |
| 必修/選択    | 必修           |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 教員  | ◎ 吉田 仁志 | 指定なし |
| 非常勤 | 佐々木 敏光  | 指定なし |

#### 目的

- ・ TOEIC対策の問題演習を通して、様々な場面での英語運用能力を身につけること。(吉田担当授業)
- ・ 時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方・考え方を身につけること。(佐々木担当授業)

#### 到達目標

(吉田担当授業)

発音・語彙・文法の演習を通して英語という言語の特質を理解し、英語コミュニケーションの基盤となる4技能をさらに発展させる。

(佐々木担当授業)

- ①時事英語のスタイルに慣れること。
- ②背景知識を身につけること。
- ③英語の構文を確認しながら、英語ニュースの内容を読み取れること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

(吉田担当授業)

1.～15. TOEICで出題される様々な場면을題材に、語彙・文法、リスニング、リーディングの演習を行う。

(佐々木担当授業)

1. ガイダンス
2. Doraemon to hit U.S. television this summer
3. Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners
4. Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans
5. German fans bring own sofas to watch World Cup
6. Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover
7. Japanese Brazilian teacher a student favorite
8. Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas
9. Tokyo 'English Village' to offer language immersion
10. Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan
11. Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral

- 12. From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains
- 13. Sign language is 'cool'
- 14. App makers snap up 1st wave of Pepper robots
- 15. Learn truth behind ivory, wood: African activist

#### 成績の評価

定期試験 70%、小テストおよび課題提出 30% で評価する。(吉田担当授業)  
定期試験 60%、復習テスト 20%、提出物 20% で評価する。(佐々木担当授業)

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案および模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業 1 コマにつき 0.5 コマ (45 分) 相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。
- ②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

#### テキスト

(吉田担当授業)

ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST (成美堂)

(佐々木担当授業)

News Matters Understanding English Newspapers <New Edition> (南雲堂)

#### 参考資料

講義の中で紹介する。

#### オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10~13:10)(吉田仁志)

木曜日 12:20~12:50 (佐々木敏光)

#### 研究室・授業用E-mail

5号館7階C720研究室(吉田仁志)

1号館2階 講師控室 (佐々木敏光)

|          |              |
|----------|--------------|
| 講義コード    | 1P065024     |
| 講義名      | 英語表現法Ⅰ②      |
| 講義開講時期   | 前期           |
| 講義区分     | 講義           |
| 基準単位数    | 2            |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1302      |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年    |
| 必修/選択    | 必修           |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 教員  | ◎ 吉田 仁志 | 指定なし |
| 非常勤 | 佐々木 敏光  | 指定なし |

#### 目的

- ・ TOEIC対策の問題演習を通して、様々な場面での英語運用能力を身につけること。(吉田担当授業)
- ・ 時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方・考え方を身につけること。(佐々木担当授業)

#### 到達目標

(吉田担当授業)

発音・語彙・文法の演習を通して英語という言語の特質を理解し、英語コミュニケーションの基盤となる4技能をさらに発展させる。

(佐々木担当授業)

- ①時事英語のスタイルに慣れること。
- ②背景知識を身につけること。
- ③英語の構文を確認しながら、英語ニュースの内容を読み取れること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

(吉田担当授業)

1.～15. TOEICで出題される様々な場面を題材に、語彙・文法、リスニング、リーディングの演習を行う。

(佐々木担当授業)

1. ガイダンス
2. Doraemon to hit U.S. television this summer
3. Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners
4. Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans
5. German fans bring own sofas to watch World Cup
6. Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover
7. Japanese Brazilian teacher a student favorite
8. Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas
9. Tokyo 'English Village' to offer language immersion
10. Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan
11. Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral

- 12. From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains
- 13. Sign language is 'cool'
- 14. App makers snap up 1st wave of Pepper robots
- 15. Learn truth behind ivory, wood: African activist

#### 成績の評価

定期試験 70%、小テストおよび課題提出 30% で評価する。(吉田担当授業)  
定期試験 60%、復習テスト 20%、提出物 20% で評価する。(佐々木担当授業)

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案および模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業 1 コマにつき 0.5 コマ (45 分) 相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。
- ②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

#### テキスト

(吉田担当授業)

ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST (成美堂)

(佐々木担当授業)

News Matters Understanding English Newspapers <New Edition> (南雲堂)

#### 参考資料

講義の中で紹介する。

#### オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10~13:10)(吉田仁志)

木曜日 12:20~12:50 (佐々木敏光)

#### 研究室・授業用E-mail

5号館7階C720研究室(吉田仁志)

1号館2階 講師控室 (佐々木敏光)



|          |              |
|----------|--------------|
| 講義コード    | 1P066024     |
| 講義名      | 英語表現法Ⅱ①      |
| 講義開講時期   | 後期           |
| 講義区分     | 講義           |
| 基準単位数    | 2            |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1303      |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年    |
| 必修/選択    | 必修           |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 亀 節子 | 指定なし |
| 教員 | 吉田 仁志  | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

吉田仁志、亀 節子

#### 目的

英語を習得する過程そのものの面白さを発見しながら、総合的な英語力を培うこと。

#### 到達目標

目からの英語、耳からの英語に対する積極的な感受性を養う訓練を通して、何事にも好奇心旺盛な姿勢を身につけること。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

#### 授業計画

（吉田仁志 担当授業）

1. 人間の体
2. 高カロリーと健康
3. 伝染病
4. 個人と公衆の衛生管理
5. 日本の医療の改善策
6. 医療における「針刺し損傷」
7. 北里柴三郎と日本の医療
8. 臨床検査技師の仕事
9. 臨床工学技士の仕事
10. 診療放射線技術
11. 理学療法士の仕事
12. 作業療法士の仕事
13. 言語聴覚士の仕事
14. 視覚機能療法
15. チーム医療の必要性

（亀 節子 担当授業）

1. UNIT1 《The Mystery of Dreams：前半部》
2. UNIT1 《The Mystery of Dreams：後半部》
3. UNIT1 《Review & Practice》
4. UNIT6 《Heat：前半部》

5. UNIT6 《Heat：後半部》
6. UNIT6 《Review & Practice》
7. UNIT14 《Hurricanes：前半部》
8. UNIT14 《Hurricanes：後半部》
9. UNIT14 《Review & Practice》
10. UNIT16 《Seedless Fruit：前半部》
11. UNIT16 《Seedless Fruit：後半部》
12. UNIT16 《Review & Practice》
13. 《Ms. Scrooge：新クリスマスキャロル》の鑑賞
14. UNIT21 《Building Healthier Houses：前半部》
15. UNIT21 《Building Healthier Houses：後半部》

#### 成績の評価

定期試験（70%）および質疑応答における主体性や集中度（30%）

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

#### 自己学習

予めテキストに目を通して単語の意味や用法の確認を済ませておけば、学習効果が増します。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

吉田仁志：The Hospital Team: English for Medical Specialists (南雲堂)

亀 節子：Our Sacred Health and Environment (成美堂)

#### 参考資料

講義の中で紹介します。

#### オフィスアワー

吉田仁志：月曜日以外の昼休み時間。

亀 節子：金曜日の16時～17時。

#### 研究室・授業用E-mail

吉田仁志：5号館7階 C720 研究室

亀 節子：管理棟2階 204 研究室・skame@kansai.ac.jp

|          |              |
|----------|--------------|
| 講義コード    | 1P066025     |
| 講義名      | 英語表現法Ⅱ②      |
| 講義開講時期   | 後期           |
| 講義区分     | 講義           |
| 基準単位数    | 2            |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1303      |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年    |
| 必修/選択    | 必修           |

### 担当教員

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 亀 節子 | 指定なし |
| 教員 | 吉田 仁志  | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

吉田仁志、亀 節子

### 目的

英語を習得する過程そのものの面白さを発見しながら、総合的な英語力を培うこと。

### 到達目標

目からの英語、耳からの英語に対する積極的な感受性を養う訓練を通して、何事にも好奇心旺盛な姿勢を身につけること。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 人間力／コミュニケーション能力

### 授業計画

（吉田仁志 担当授業）

1. 人間の体
2. 高カロリーと健康
3. 伝染病
4. 個人と公衆の衛生管理
5. 日本の医療の改善策
6. 医療における「針刺し損傷」
7. 北里柴三郎と日本の医療
8. 臨床検査技師の仕事
9. 臨床工学技士の仕事
10. 診療放射線技術
11. 理学療法士の仕事
12. 作業療法士の仕事
13. 言語聴覚士の仕事
14. 視覚機能療法
15. チーム医療の必要性

（亀 節子 担当授業）

1. UNIT1 《The Mystery of Dreams：前半部》
2. UNIT1 《The Mystery of Dreams：後半部》
3. UNIT1 《Review & Practice》
4. UNIT6 《Heat：前半部》

5. UNIT6 《Heat：後半部》
6. UNIT6 《Review & Practice》
7. UNIT14 《Hurricanes：前半部》
8. UNIT14 《Hurricanes：後半部》
9. UNIT14 《Review & Practice》
10. UNIT16 《Seedless Fruit：前半部》
11. UNIT16 《Seedless Fruit：後半部》
12. UNIT16 《Review & Practice》
13. 《Ms. Scrooge：新クリスマスキャロル》の鑑賞
14. UNIT21 《Building Healthier Houses：前半部》
15. UNIT21 《Building Healthier Houses：後半部》

#### 成績の評価

定期試験での成績、受講態度などに基づく授業への取り組み度、この両者にて評価を行います(定期試験70%・授業への取り組み度30%)。2名の教員によって担当するので、最終評価は、その総合点の平均となります。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

#### 自己学習

予めテキストに目を通して単語の意味や用法の確認を済ませておけば、学習効果が増します。授業1コマにつき05コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

吉田仁志：The Hospital Team: English for Medical Specialists (南雲堂)

亀 節子：Our Sacred Health and Environment (成美堂)

#### 参考資料

講義の中で紹介します。

#### オフィスアワー

吉田仁志：月曜日以外の昼休み時間。

亀 節子：金曜日の16時～17時。

#### 研究室・授業用E-mail

吉田仁志：5号館7階 C720 研究室

亀 節子：管理棟2階 204 研究室・skame@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P082012  |
| 講義名      | 感染管理学     |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学   |
| 科目ナンバリング | P1-0407   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 高木 綾一 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

高木 綾一・加藤 祥子

#### 目的

高齢者に対する医療や理学療法における感染管理の重要性を理解する。そのうえで、感染管理の具体的手法を把握し、理学療法提供時の感染防止についての知識を深める。

#### 到達目標

理学療法における感染管理の重要性を理解し、感染管理の具体的手法について習得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. 感染症とは（高木）
2. 理学療法と感染症 I（高木）
3. 理学療法と感染症 II（高木）
4. 感染経路（加藤）
5. 消毒と滅菌・感染防止策（加藤）
6. 感染症と理学療法事例（高木）
7. 感染症と理学療法事例（高木）

#### 成績の評価

定期試験にて行う。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

特に指定しない。

#### 参考資料

特に指定しない。

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P085013  |
| 講義名      | 環境と健康     |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1210   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松本 健治 | 指定なし |

#### 目的

人間の健康だけでなくあらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右される。種々の環境を理解したうえで、様々な環境が人間の心身にどのような影響をあたえるのかを学習する。

#### 到達目標

環境と健康の関連についての考え方や環境・健康学の基礎を学習したうえで、具体的内容として健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病・障害予防対策が理解できるようになり、将来、医療専門職としての基礎的な知識が身に付く。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

1. 環境と健康  
環境と人間との相互関係、生態系の営み
2. 物理的環境（その1）  
温熱条件、騒音、振動
3. 物理的環境（その2）  
電磁波、異常気圧
4. 化学的環境（その1）「空気と健康」を中心に
5. 化学的環境（その2）  
有害化学物質の吸収、体内蓄積、排泄、症状、  
障害の予防、変異原と催奇形原
6. 生物的環境  
病原微生物、病原体を保有または媒介する動物
7. 生物的環境：寄生虫、有毒動植物を中心に
8. 食物環境：食の安全性をめぐって
9. 衣服と住居環境  
快適条件、シックハウス症候群
10. 水をめぐる問題：水と健康
11. 公害の人間生活への影響  
身体的・精神的・心理的影響、防止対策、  
環境保全の原則
12. 地球環境問題（その1）  
地球環境と生活、残留性有機汚染物質、  
内分泌攪乱化学物質、有害廃棄物の越境移動

13. 地球環境問題（その2）  
オゾン層の破壊、地球温暖化
14. 地球環境問題（その3）  
酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、  
海洋汚染
15. 地球環境問題（その4）とまとめ  
地球環境問題への取組み

#### 成績の評価

国試形式による試験40問（80%）と授業への取り組み度（20%）で評価します。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

最終の授業時間に提出された課題とミニレポート（教員のコメント入り）を返却する。試験終了後（試験期間終了後）に解答を配布する。

#### 自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と1週間前に配布した資料で予習することが肝要。授業1コマにつき1コマ（90分）相当の予習と1コマ（90分）相当の復習を行ってください。

#### 履修上の注意

#### テキスト

1週間以上前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。

#### 参考資料

適宜、紹介します。

#### オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P096011  |
| 講義名      | 基礎ゼミⅠ     |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 演習        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 発展科目      |
| 科目ナンバリング | P1-0901   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 米田 浩久 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久〔理学療法士〕  
東藤真理奈〔理学療法士〕

#### 目的

後期の基礎ゼミⅡにおいて本学附属診療所で問診実習を行なうにあたり、患者様に接する際の理学療法士としての基本的な姿勢や問診に必要な面談方法についての習熟を目指す。具体的には、臨床事例を基にした問診のロールプレイングを行うこととする。また、熊取町のタピオ体操を通して、介護予防の重要性の把握と参加者への適切な介入、現場への習熟を目的に、グループワークを通して夏休みに実施する各タピオステーションでのタピオ体操参加の準備を行なう。

#### 到達目標

本教科では、医療面談が行えることを目標にするとともに、医療面談の結果から最も困っているADL（日常生活活動）を十分に抽出できることを目標とする。また、タピオ体操への参加準備を通して、予防の観点から理学療法士としての関与を学ぶ。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

- 1.オリエンテーションとグループ分け
- 2.日常生活活動（ADL）の概要とその構成
- 3.トップダウン評価の概要と問診の位置付け
- 4.情報収集の基礎知識と接遇
- 5.問診ロールプレイング1
- 6.問診ロールプレイング2
- 7.タピオ体操 グループワーク1（事業背景の理解と参加概要説明）
- 8.タピオ体操 グループワーク2（バイタル測定実技）
- 9.タピオ体操 グループワーク3（基幹体操と筋トレ・ストレッチの理解と習熟）
- 10.タピオ体操 グループワーク4（お口の体操とあたまの体操の理解と習熟）
- 11.タピオ体操 グループワーク5（各体操の身体的機能の根拠づけと改善点検討1）
- 12.タピオ体操 グループワーク6（各体操の身体的機能の根拠づけと改善点検討2）
- 13.タピオ体操 グループワーク7（参加者カルテの作成）
- 14.タピオ体操 グループワーク8（参加マニュアル作成）
- 15.タピオ体操 グループワーク9（体操の全体予行会）

#### 成績の評価

50

OSCE20

30



定期試験 %、問診 %、タピオ体操参加マニュアル %

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示するとともに、タピオ体操参加マニュアルへの解説を行う

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の時間をかけて予習と復習を行うこと。具体的には、問診や介助法は臨床技術であるため、技術を習得し、維持するように絶えず努力すること。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

参考資料

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

「ケースで学ぶ理学療法臨床思考臨床推論能力スキルアップ」（文光堂）

オフィスアワー

火曜日 12時～13時（米田）

水曜日 12時10分～17時（東藤）

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室（米田） ・ yoneda@kansai.ac.jp

4号館5階 D513第1共同研究室（東藤） ・ todo@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P097011  |
| 講義名      | 基礎ゼミⅡ     |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 演習        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 発展科目      |
| 科目ナンバリング | P1-0902   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 米田 浩久 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久〔理学療法士〕

山崎 航〔理学療法士〕

#### 目的

本講義では、グループで本学附属診療所にて問診実習を実施する。基礎ゼミⅠで講義した問診に関する事項を基に、実際に患者様に対して問診を行い、患者様の主訴やニーズ、問題点を適切に汲み取れることを目標とする。聴取した問診内容についてはグループごとにレポートを課し、適切な根拠を常に求める習慣付けを体得させる。また、教室組の前半は、夏休みに参加したタピオ体操の統括をグループごとに行なう。統括では、全参加を振り返り、問題や改善点、次年度への送り事項などの洗い出しを行なう。さらに教室組の後半は、介助法の実技の習得を実施する。なお、タピオ体操の統括と問診実習については、グループごとにプレゼンテーションを実施する。

#### 到達目標

トップダウン評価の入り口となる問診技術の習得を目指す。また、夏休みに参加したタピオ体操の統括を図ることにより、介入した結果をまとめる能力と考察する能力、さらに問題点や改善点を抽出する能力を養う。さらに、臨床技術である介助法の取得を目指す。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. A～B 問診実習1/ C～F タピオ体操統括
2. C～D 問診実習1/ A～B、E～F タピオ体操統括
3. E～F 問診実習1/ A～D タピオ体操統括
4. A～B 問診実習2/ C～F タピオ体操統括
5. C～D 問診実習2/ A～B、E～F タピオ体操統括
6. E～F 問診実習2/ A～D タピオ体操統括
7. A～B 問診実習3/ C～F 介助法実技
8. C～D 問診実習3/ A～B、E～F 介助法実技
9. E～F 問診実習3/ A～D 介助法実技
10. A～B 問診実習4/ C～F 介助法実技
11. C～D 問診実習4/ A～B、E～F 介助法実技
12. E～F 問診実習4/ A～D 介助法実技
13. グループ発表1 タピオ体操統括（A～C班）
14. グループ発表2 タピオ体操統括（D～F班）

## 15. グループ発表<sup>3</sup> 問診実習 (A～F班)

### 成績の評価

タピオ体操のグループ統括レポート30%、問診実習のレポート50%、介助法OSCE20%

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートへの解説を実施する

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の時間をかけて予習と復習を行うこと。特に、患者様への問診がおこなえるように基礎ゼミ1の講義内容を再度把握しておくことと座学で教授する動作観察について繰り返し文章を作成すること。

### テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

### 参考資料

「臨床理学療法評価法」(アイペック)

「ケースで学ぶ理学療法臨床思考臨床推論能力スキルアップ」(文光堂)

### オフィスアワー

火曜日 12時～13時 (米田)

水曜日: 12時～13時 (山崎)

### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室 (米田) ・ yoneda@kansai.ac.jp

4号館5階 D513第1共同研究室 (山崎) ・ w.yamazaki@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P098011        |
| 講義名      | 基礎運動学Ⅰ          |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0107         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

### 担当教員

| 職種 | 氏名       | 所属   |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 東藤 真理奈 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

東藤真理奈〔理学療法士〕

### 目的

理学療法とは、身体機能改善を目的に行う治療である。そのため、理学療法士は動作を構成する身体運動の仕組みについて理解しておく必要がある。本講義では運動に必要な基礎的な関節の構造や筋の役割について知識を深めることを目的とする。

### 到達目標

解剖学および生理学や物理学で得た知識から、身体運動の理解を目的とする。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／臨床推論力

### 授業計画

- 1.運動とは
- 2.関節の構造と種類
- 3.運動面と運動軸
- 4.肩関節複合体の運動①
- 5.肩関節複合体の運動②
- 6.肩関節複合体の運動③
- 7.肩関節複合体の運動④
- 8.肩関節複合体の運動⑤
- 9.肘関節・前腕の運動①
- 10.肘関節・前腕の運動②
- 11.手関節・手指の運動①
- 12.手関節・手指の運動②
- 13.動作観察①
- 14.動作観察②
- 15.動作観察③

### 成績の評価

定期試験85%

授業終了時に行う小テスト15%にて総合的に評価する。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
具体的には、授業で配布するプリントと教科書を照らし合わせて熟読する。

## テキスト

基礎運動学 第6版（医歯薬出版）

## 参考資料

Physical Therapy for Shoulder Disorders-肩関節疾患と理学療法-（アイベック）

## オフィスアワー

月曜日 12：30～13：10

## 研究室・授業用E-mail

4号館5階D513第1共同研究室  
Mail:todo@kansai.ac.jp

|          |              |
|----------|--------------|
| 講義コード    | 1P139024     |
| 講義名      | 国語表現法        |
| 講義開講時期   | 前期           |
| 講義区分     | 講義           |
| 基準単位数    | 2            |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1301      |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年    |
| 必修/選択    | 必修           |

### 担当教員

| 職種  | 氏名       | 所属   |
|-----|----------|------|
| 非常勤 | ◎ 南山 かおり | 指定なし |

### 目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

### 到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

### 授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

## 成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・授業への取り組み度10%（授業中の小レポートにより評価）

※詳細については、授業の中で伝える。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中に、レポートの解説を実施する。

## 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

## 履修上の注意

課題のレポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

## テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

## 参考資料

- |               |        |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」      | （岩波新書） |
| 「日本語はおもしろい」   | （岩波新書） |
| 「私家版 日本語文法」   | （新潮文庫） |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | （笠間書院） |
| 「全国アホ・バカ分布考」  | （新潮文庫） |

## オフィスアワー

火曜日 12:30~13:00

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 非常勤講師控室

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P169024  |
| 講義名      | 情報科学      |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤  |
| 科目ナンバリング | GE-1106   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 中村 正信 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

中村正信

### 目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率良く必要かつ有用な情報を入手しそれらを整理し分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

### 到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理、データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／コミュニケーション能力

### 授業計画

01. 情報社会のセキュリティ、コンピュータの基本操作
02. ワードプロソフトの利用-ビジネス文章の作成
03. ワードプロソフトの利用-表でまとめる
04. ワードプロソフトの利用-図で魅せる
05. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
06. 表計算ソフトの利用-書式で編集
07. 表計算ソフトの利用-関数を使う
08. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
09. 表計算ソフトの利用-データベースの活用
10. 表計算ソフトの利用-効率化を図る
11. ソフトの連携
12. プレゼンテーションソフトの利用-スライドの作成
13. プレゼンテーションソフトの利用-魅力的に仕上げる
14. 総合演習
15. まとめ

### 成績の評価

試験約60%・授業中提出物約30%・授業への取り組み度約10%

### 自己学習



授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

#### テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」（noa出版）

#### 参考資料

「情報利活用コンピュータリテラシー」（日経BP社）

#### オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

#### 研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P174012  |
| 講義名      | 心と身体の健康   |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1203.1 |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

### 担当教員

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 郭 哲次 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

郭 哲次 （医師）

### 目的

近年、様々なメディアを通して「心の病」や「心身症」の増加、特にうつ病患者などの著しい増加が叫ばれるようになり、世界的にもメンタルヘルスへの関心が高まっている。一方からだや身体的疾病への、私たちの理解は少し深まったが「こころの健康」「精神の病」についての理解には、著しい先入観や偏見が多く、十分であるとは言い難い。ここで、いま、医療人として「私たちは心をどうとらえたらよいのか？」、「心と身体にはどういうつながりがあるのか？」、「健康な心と病める心は異なるものなのか？」のテーマに対してもう一度考え直し、＜心と身体の間にも生まれてくる様々な困難や病＞を概観しながら、『心と身体の健康』について深く考える機会を持つ。これにより、医療人として基本的に身につけるべき『心と身体の健康』のあり方を学ぶことを目的とする。

### 到達目標

健康人の心のあり方や基本的なこころの障害を十分に理解し医療に役立てることができる

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

### 授業計画

1. 総論
2. うつは治りにくいのか？（気分障害）
3. 幻覚妄想はなぜ起こる？（統合失調症）
4. 不安は異常か？（神経症性障害）
5. 行動パターンの偏りは病気か？（成人の人格・行動の障害）
6. 主要な精神障害のまとめ
7. 身体の異常が精神の異常を引き起こすか？（器質性精神障害）
8. けいれん？ ふるえ？（てんかんの知識）
9. アルコールの依存（①物質⇒脳）
10. 薬物の依存（②物質⇒脳）
11. 物忘れは異常か？（正常脳細胞の減少⇒認知・行動異常）
12. 児童・青年期の精神障害
13. 睡眠と健康・睡眠障害（からだと脳のリズム）
14. 運動とこころまたは疼痛
15. 総まとめ

### 成績の評価

原則：試験（一部レポートを含む）80%、授業への取り組み度20%、熱意のある積極的な取り組み必要。

ルール違反はすべて減点対象

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を提示する

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと

授業計画のタイトルの疾患について、各講義ごとに教科書でしらべ予備知識をもっておくこと（予習）。

授業中にプリントおよび教科書を自分用にカスタマイズすること（授業中）。

各講義ごとのプリント（講義内容の抜粋）を用いて復習を行うこと（復習）。

テキスト

「第3版 コメディカルのための専門基礎分野精神医学」（中外医学社）

参考資料

講義中に適宜紹介する

オフィスアワー

木曜日12時から約1時間（原則として、事前予約が必要）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階403研究室 tkaku@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P187024        |
| 講義名      | 人体の機能Ⅰ          |
| 講義開講時期   | 前期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 2               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0104         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

**担当教員**

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 榎葉 均 | 指定なし |

**担当教員（実務経験を有する資格）**

榎葉均

**目的**

生理学（Physiology）は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。理学療法士においてもその重要性にかわりはありません。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができますが、「人体の機能Ⅰ」では、神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学習します。

**到達目標**

教科書に記載されている事項について十分に理解し、「生理学・国家試験問題集」（授業中に配布）にある各設問の解説が出来るように知識を高めて下さい。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／臨床推論力**

**授業計画**

1. 生理学一般
  2. 神経（神経の一般的性質、変性と再生）
  3. 神経（静止膜電位、活動電位）
  4. 神経（興奮の伝導と伝達）
  5. 神経（末梢神経系）
  6. 神経（中枢神経系）
  7. 神経（自律神経系）
  8. 筋（筋収縮の仕組みとその分類）
  9. 筋（骨格筋、心筋、平滑筋）
  10. 筋（筋のエネルギー代謝）
  11. 運動（骨格筋に神経支配）
  12. 運動（下行路、運動の調節）
  13. 感覚（感覚の仕組みと一般的性質）
  14. 感覚（皮膚感覚と内臓感覚）
  15. 感覚（特殊感覚）
- （1～15までの各項目につき、各4時間毎の講義を行う）

**成績の評価**

試験100%にて評価します。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

## 自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。  
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行って下さい。

## テキスト

『生理学 第3版』東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

## 参考資料

適宜、講義中に紹介します。

## オフィスアワー

火曜日と水曜日の12:10～13:10。

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P188014        |
| 講義名      | 人体の機能Ⅱ          |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0105         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 榎葉 均 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

榎葉均

#### 目的

生理学（Physiology）は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。理学療法士においてもその重要性にかわりはありません。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができます。「人体の機能Ⅱ」では植物性機能、つまり、循環器系、呼吸器系、消化器系、排泄器系、生殖器系、内分泌系の機能について学習します。

#### 到達目標

教科書に記載されている事項について十分に理解し、「生理学・国家試験問題集」（授業中に配布）にある各設問の解説が出来るように知識を高めて下さい。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝（三大栄養素、同化と異化）
10. 体温（産熱、発熱、体温調節の仕組み）
11. 排泄（尿の生成）
12. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
13. 内分泌（ホルモンの性質）
14. 内分泌（内分泌腺の働き）
15. 生殖（生殖器機能、性ホルモン）

#### 成績の評価

試験100%にて評価します。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

## 自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行って下さい。

## テキスト

「生理学 第3版」 東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

## 参考資料

適宜、講義中に紹介します。

## オフィスアワー

火曜日と水曜日の12:10～13:10。

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P189012        |
| 講義名      | 人体の機能実習         |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 実習              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0106         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名     | 所属   |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 榎葉 均 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

榎葉均、大島稔

#### 目的

「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をさらに深く理解するため、幾つかの生理学の項目について実習講義と実習を行います。実習の項目は以下の通りです。①生理学実習装置の理解とその操作方法 ②心電図の測定と三角図法 ③皮膚感覚：感覚点と二点弁別閾 ④血液型の判定とヘマトクリット値 ⑤呼吸運動と肺気量分画 ⑥カエルの神経と筋

#### 到達目標

「人体の機能実習」を行うことで、「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をさらに深く理解し、自分の知識として確立させることを到達目標として下さい。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

|       |      |                  |         |
|-------|------|------------------|---------|
| 1     | 実習講義 | ①生理学実習装置の理解      | （榎葉）    |
| 2/3   | 実習   | ①生理学実習装置の理解      | （榎葉、大島） |
| 4/5   | 実習講義 | ②心電図の測定と三角図法     | （榎葉）    |
| 6/7   | 実習   | ②心電図の測定と三角図法     | （榎葉、大島） |
| 8/9   | 実習講義 | ③皮膚感覚：感覚点と二点弁別閾  | （榎葉）    |
| 10/11 | 実習   | ③皮膚感覚：感覚点と二点弁別閾  | （榎葉、大島） |
| 12/13 | 実習講義 | ④血液型の判定とヘマトクリット値 | （榎葉）    |
| 14/15 | 実習   | ④血液型の判定とヘマトクリット値 | （榎葉、大島） |
| 16/17 | 実習講義 | ⑤呼吸運動と肺気量分画      | （榎葉）    |
| 18/19 | 実習   | ⑤呼吸運動と肺気量分画      | （榎葉、大島） |
| 20/21 | 実習講義 | ⑥カエルの神経と筋        | （榎葉）    |
| 22/23 | 実習   | ⑥カエルの神経と筋        | （榎葉、大島） |

（実習についてはクラスを二つにグループ分けし、それぞれ榎葉と大島が担当する）

#### 成績の評価

実習への取り組み方とレポート60点、実習テスト40点にて評価します。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。



## 自己学習

事前の実習に関わる項目を教科書を参考に学習しておくことが重要です。

## テキスト

実習中に配布します。

## 参考資料

「生理学 第3版」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)

## オフィスアワー

火曜日と水曜日の12:10~13:10。

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P194024        |
| 講義名      | 人体の構造 I         |
| 講義開講時期   | 前期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 2               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0101         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 深澤 洋滋 | 指定なし |

#### 目的

医学の最も基礎を構成する科目の一つが「人体の構造」です。人体の各部分の構造はその与えられた機能を円滑かつ効率的に行うため、驚くべき進化を遂げています。「人体の構造I」では骨学・筋学に焦点をあて、人体の正常な運動器系の構造を熟知し、構造と機能の関連を理解することを目的とします。

#### 到達目標

骨学・筋学の基本的な知識を学習し、これらにより構成される運動器系について臨床応用可能な知識を習得します。そのため、3次元的な知識の構築のため、講義の進行に合わせ、人体骨標本や筋模型標本を用いた実習を行います。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 人体の構成
2. 人体を構成する組織
3. 頭蓋を構成する骨
4. 脊柱を構成する骨
5. 胸郭を構成する骨
6. 上肢の骨・上肢の関節
7. 下肢の骨
8. 下肢の関節・骨盤
9. 骨盤筋・大腿の筋
10. 下腿の筋・足の筋
11. 上肢帯の筋・上腕の筋
12. 前腕の筋・手の筋
13. 頭部の筋・頸部の筋
14. 背部の筋・胸部の筋
15. 腹部の筋・会陰筋

#### 成績の評価

試験は中間試験と学期末試験を実施します、中間試験結果(50%)、学期末試験結果(50%) (追再試験結果を含む) に基づいて評価します。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

中間試験、学期末試験とも試験終了後に模範解答を開示します。また、各試験後には試験問題の

解説を実施し、設問に対する理解を深めます。成績発表後には、各試験答案を開示します。

### 自己学習

指定テキストである「Essential解剖学テキスト&アトラス」を講義前に読み、講義内容についての予習を行って下さい。また、講義内容の理解を深めるため『骨学』と『筋学』のワークシートを配付します。講義の進行に合わせてワークシート課題を進めてください。（講義1コマにつき45分相当の予習と復習を行ってください。）講義内容については些細なことでも疑問が生じれば質問して下さい。

### テキスト

『配付プリント』（111枚）

『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』（南江堂）

### 参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学コアアトラス」（医学書院）

「人体解剖カラーアトラス 原著第5版」（南江堂）

### オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

事前に下記のメールアドレス等に連絡頂ければ、他の曜日・時間帯でも対応可能です。

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室

fukazawa@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P195014        |
| 講義名      | 人体の構造 II        |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 講義              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0102         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 深澤 洋滋 | 指定なし |

#### 目的

「人体の構造I」に続き人体の正常な構造を熟知するため、人体を構成する系統のうち消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・循環器系・神経系・感覚器系について講義を行います。

#### 到達目標

系統解剖学により得た知識を融合させ局所解剖学的知識に発展させることを目標とします。また、組織学の基本知識を身につけることにより、マクロだけでなくミクロレベルからも構造と機能の関係を深く理解出来るよう、講義の進行に合わせ、主要臓器組織標本の光学顕微鏡による観察を行う組織学実習を平行して実施します。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 内臓学総論・消化器系（口腔・胃）
2. 消化器系（小腸・大腸・肝臓・膵臓）
3. 呼吸器系
4. 泌尿器系
5. 生殖器系
6. 内分泌系
7. 循環器系（心臓・動脈）
8. 循環器系（静脈・リンパ・胎児循環）
9. 神経系（概論・中枢神経系）
10. 神経系（中枢神経系）
11. 神経系（中枢神経系）
12. 神経系（末梢神経系）
13. 神経系（末梢神経系）
14. 神経系（伝導路）
15. 神経系（感覚器）

#### 成績の評価

試験は中間試験と学期末試験を実施します。中間試験結果(50%)学期末試験結果(50%)（追再試験結果を含む）に基づいて評価します。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

中間試験、学期末試験とも試験終了後に模範解答を開示します。また、各試験後には試験問題の

解説を実施し、設問に対する理解を深めます。成績発表後には、各試験答案を開示します。

### 自己学習

指定テキストである『Essential解剖学テキスト&アトラス』を講義前に読み、講義内容についての予習を行って下さい。また、講義内容の理解を深めるため、講義の進行に合わせて、講義1コマにつき45分間相当の予習と復習を行ってください。講義については些細なことでも疑問が生じれば質問して下さい。

### テキスト

『配付プリント』（111枚）  
『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』（南江堂）

### 参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）  
「プロメテウス解剖学コアアトラス」（医学書院）  
「人体解剖カラーアトラス 原著第5版」（南江堂）

### オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

事前に下記のメールアドレス等に連絡頂ければ、他の時間帯・曜日でも対応可能です。

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室  
fukazawa@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P196012        |
| 講義名      | 人体の構造実習①        |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 実習              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0103         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 深澤 洋滋 | 指定なし |

#### 目的

「人体の構造Ⅰ」で学習した骨学や筋学の知識に立体的な理解を加えるため、人体骨標本や筋膜型標本を教材に用いた観察とワークシートの課題に沿った実習作業を行います。また、「人体の構造Ⅱ」に関しては、講義内容の進行に平行して主要な臓器標本の光学顕微鏡観察を実施します。この科目は本来実習科目としての位置づけですが、講義の進行に合わせて一部の時間に講義を行います。

#### 到達目標

人体を構成する各器官系について局所解剖学的に理解を深めることを目標とします。また、マクロ的な理解に留まらず、それらを構成する細胞や組織のミクロレベルでの特徴的な構造を各々の臓器機能と関連付けて理解を深めます。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 骨学実習 (頭蓋骨)
2. 骨学実習 (体幹の骨)
3. 骨学実習 (上肢の骨)
4. 骨学実習 (下肢の骨)
5. 筋学実習 (頭頸部の筋)
6. 筋学実習 (体幹の筋)
7. 筋学実習 (上肢の筋)
8. 筋学実習 (下肢の筋)
9. 顕微鏡実習 (基本操作の習得)
10. 顕微鏡実習 (消化器系1)
11. 顕微鏡実習 (消化器系2)
12. 顕微鏡実習 (呼吸器系)
13. 顕微鏡実習 (泌尿器系)
14. 顕微鏡実習 (生殖器系)
15. 顕微鏡実習 (内分泌系)

#### 成績の評価

実習試験(10%)および実習作業の内容、提出物[骨学実習Worksheet(30%)、筋学実習Worksheet(30%)、組織学実習Worksheet(30%)]に基づいて評価を行います。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示します。成績発表後には、試験答案を開示します。  
Sheetは採点后、返却します。

### 自己学習

配付する骨学実習Worksheet、筋学実習Worksheet、組織学実習Worksheetには、課題以外に自主的な取り組みを促す内容が加えられています。課外での作業中に課題のみならず、これらの内容についても積極的に取り組み、理解を深めて下さい。

### テキスト

骨学実習Worksheet、筋学実習Worksheet、組織学実習Worksheetを配付します。

### オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

事前に下記のメールアドレス等に連絡頂ければ、他の時間帯・曜日でも対応可能です。

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室  
fukazawa@kansai.ac.jp

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 講義コード    | 1P196013        |
| 講義名      | 人体の構造実習②        |
| 講義開講時期   | 後期              |
| 講義区分     | 実習              |
| 基準単位数    | 1               |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P1-0103         |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年       |
| 必修/選択    | 必修              |

### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 深澤 洋滋 | 指定なし |

### 目的

「人体の構造Ⅰ」で学習した骨学や筋学の知識に立体的な理解を加えるため、人体骨標本や筋膜型標本を教材に用いた観察とワークシートの課題に沿った実習作業を行います。また、「人体の構造Ⅱ」に関しては、講義内容の進行に平行して主要な臓器標本の光学顕微鏡観察を実施します。この科目は本来実習科目としての位置づけですが、講義の進行に合わせて一部の時間に講義を行います。

### 到達目標

人体を構成する各器官系について局所解剖学的に理解を深めることを目標とします。また、マクロ的な理解に留まらず、それらを構成する細胞や組織のミクロレベルでの特徴的な構造を各々の臓器機能と関連付けて理解を深めます。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 骨学実習 (頭蓋骨)
2. 骨学実習 (体幹の骨)
3. 骨学実習 (上肢の骨)
4. 骨学実習 (下肢の骨)
5. 筋学実習 (頭頸部の筋)
6. 筋学実習 (体幹の筋)
7. 筋学実習 (上肢の筋)
8. 筋学実習 (下肢の筋)
9. 顕微鏡実習 (基本操作の習得)
10. 顕微鏡実習 (消化器系1)
11. 顕微鏡実習 (消化器系2)
12. 顕微鏡実習 (呼吸器系)
13. 顕微鏡実習 (泌尿器系)
14. 顕微鏡実習 (生殖器系)
15. 顕微鏡実習 (内分泌系)

### 成績の評価

実習試験(10%)および実習作業の内容、提出物[骨学実習Worksheet(30%)、筋学実習Worksheet(30%)、組織学実習Worksheet(30%)]に基づいて評価を行います。

### 定期試験、レポート等に対するフィードバック



定期試験終了後に模範解答を開示します。成績発表後には、試験答案を開示します。  
Sheetは採点后、返却します。

### 自己学習

配付する骨学実習Worksheet、筋学実習Worksheet、組織学実習Worksheetには、課題以外に自主的な取り組みを促す内容が加えられています。課外での作業中に課題のみならず、これらの内容についても積極的に取り組み、理解を深めて下さい。

### テキスト

骨学実習Worksheet、筋学実習Worksheet、組織学実習Worksheetを配付します。

### オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

事前に下記のメールアドレス等に連絡頂ければ、他の時間帯・曜日でも対応可能です。

### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室  
fukazawa@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P221014  |
| 講義名      | 生涯スポーツⅠ   |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 実習        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1207   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 渡邊 俊哉 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

渡邊俊哉  
相澤慎太

#### 目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

#### 到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／協調する力

#### 授業計画

1. ガイダンス（次週からの種目選択）
  2. ソフトボールの実践①
  3. ソフトボールの実践②
  4. ソフトボールの実践③
  5. ソフトボールの実践④
  6. ソフトボールの実践⑤
  7. ソフトボールの実践⑥
  8. ソフトボールの実践⑦
  9. 卓球の実践①
  10. 卓球の実践②
  11. 卓球の実践③
  12. バドミントンの実践①
  13. バドミントンの実践②
  14. バドミントンの実践③
  15. バドミントンの実践④
- 【太極拳コース】
2. 太極拳の基本①（渡邊）
  3. 太極拳の基本②（渡邊）
  4. 太極拳の基本③（渡邊）
  5. 動作名：予備式（ユウベイシー）（渡邊）

6. 動作名：起 勢 (チーシー) (渡邊)
7. 動作名：手揮琵琶 (ショウホイピーパー) (渡邊)
8. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン) (渡邊)
9. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン) (渡邊)
10. 動作名：野馬分鬃 (イエマフェンゾン) (渡邊)
11. 動作名：野馬分鬃 (イエマフェンゾン) (渡邊)
12. 動作名：単 鞭 (ダンビエン) (渡邊)
13. 動作名：十 字 手 (シーズーショウ) (渡邊)
14. 動作名：収 勢 (ショウシー) (渡邊)
15. 総まとめ (渡邊)

#### 成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

#### オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室  
aizawa@kansai.ac.jp (相澤)

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P222014  |
| 講義名      | 生涯スポーツII  |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 実習        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1208   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 渡邊 俊哉 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

渡邊俊哉  
相澤慎太

### 目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

### 到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### コミュニケーション能力/協調する力

### 授業計画

#### 1. 【合同授業】（相澤、渡邊）

ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決定する。）

#### 【運動ゲームコース】（担当：相澤）

2. ソフトボールの実践①
3. ソフトボールの実践②
4. ソフトボールの実践③
5. ソフトボールの実践④
6. ソフトボールの実践⑤
7. ソフトボールの実践⑥
8. ソフトボールの実践⑦
9. 卓球の実践①
10. 卓球の実践②
11. 卓球の実践③
12. 卓球の実践④
13. 卓球の実践⑤
14. 卓球の実践⑥
15. 卓球の実践⑦

#### 【太極拳コース】

2. 太極拳の基本① (渡邊)
3. 太極拳の基本② (渡邊)
4. 太極拳の基本③ (渡邊)
5. 動作名：予 備 式 (ユウベイシー) (渡邊)
6. 動作名：起 勢 (チーシー) (渡邊)
7. 動作名：野馬分鬃 (イエマフェンゾン) (渡邊)
8. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン) (渡邊)
9. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン) (渡邊)
10. 動作名：攬 雀 尾 (ランチュウウエイ) (渡邊)
11. 動作名：攬 雀 尾 (ランチュウウエイ) (渡邊)
12. 動作名：単 鞭 (ダンビエン) (渡邊)
13. 動作名：十 字 手 (シーズーショウ) (渡邊)
14. 動作名：収 勢 (ショウシー) (渡邊)
15. 総まとめ (渡邊)

#### 成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

#### オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究  
aizawa@kansai.ac.jp (相澤)

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P226014  |
| 講義名      | 生命のしくみ    |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤  |
| 科目ナンバリング | GE-1102   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 青野 由紀 | 指定なし |

#### 目的

生命のしくみ（生物学）に関する知識は医学系科目の基礎となり、医療を志す者にとって必須である。

生物学は基本的には生物の共通性・多様性について学習することである。共通性とは分子、細胞、エネルギー、自己複製などであり、多様性とは種、生態系などである。これらの共通性・多様性の学習を通じて自然科学に対する考え、探求する能力などを育成し、また生物学に関する基本的な概念を理解することで科学的な自然観を養う。

#### 到達目標

1. 生命活動に関する基本的な内容を理解する。
2. 細胞に関する知識・理解を深める。
3. 分子生物学に関する基本的な内容を理解する。
4. 身近な問題に関して科学的な考えができるようになる。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

1. 細胞の機能と構造
2. 分裂・増殖
3. 細胞死
4. 細胞内外の情報伝達
5. 遺伝子・DNA
6. 遺伝情報の流れ
7. 遺伝子発現
8. 分子生物学の応用（1）PCR法
9. 分子生物学の応用（2）遺伝子組み換え
10. 再生医療
11. 生体防御
12. 自然免疫
13. 獲得免疫
14. 生物と環境
15. まとめ

#### 成績の評価

筆記試験での評価とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。  
授業前に1度は前回の授業ノートを見直しておくこと。

### テキスト

「スクエア最新図説生物」第一学習社

### 参考資料

「Essential細胞生物学」南光堂

### オフィスアワー

### 授業後

### 研究室・授業用E-mail

kasahara@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P229014  |
| 講義名      | 生命の化学     |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤  |
| 科目ナンバリング | GE-1104   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 岩橋 秀夫 | 指定なし |

#### 目的

生体を構成する物質の基礎知識の修得を通して、理学療法学を学ぶための基礎知識及び思考力の修得を目指す。

#### 到達目標

生体を構成する物質の基礎知識の修得を通して、理学療法学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／科学的思考力

#### 授業計画

1. 水
2. 生体膜と浸透圧
3. 化学反応と酵素
4. 酸・塩基平衡と緩衝作用
5. 糖質 (1)
6. 糖質 (2)
7. 脂質 (1)
8. 脂質 (2)
9. 蛋白質・アミノ酸 (1)
10. 蛋白質・アミノ酸 (2)
11. 核酸 (1)
12. 核酸 (2)
13. 消化・吸収
14. 生体とエネルギー
15. 生体の恒常性の維持

#### 成績の評価

小テスト (30%)、定期試験 (70%)

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。参考資料をもとに次回講義予定内容について予習し、授業中に課した演習問題を重点に復習しておくこと。

#### テキスト

配布資料による。



参考資料

「バイオサイエンス化学」(東京化学同人)  
「ライフサイエンス系の基礎物理化学」(東京化学同人)  
「生命科学のための有機化学II」(東京大学出版会)

オフィスアワー

月曜日・金曜日(12時20分~13時10分)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F410研究室 iwahashi@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P230015  |
| 講義名      | 生命倫理      |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1201   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 教員  | ◎ 池田 裕明 | 指定なし |
| 非常勤 | 矢本 希夫   | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

池田裕明  
矢本希夫

#### 目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

#### 到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／倫理に基づく行動力

#### 授業計画

#### オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
- 第二講 医療情報と個人情報保護
- 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
- 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
- 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題  
(池田)
- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
- 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
- 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
- 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
- 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療
- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
- 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
- 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術

第十四講 出生をめぐる倫理問題（その4）—新生児医療  
第十五講 出生をめぐる倫理問題（その5）—その他  
（矢本）

#### 成績の評価

定期試験、2人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

#### 履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

#### テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

#### 参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

#### 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室（池田）

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P231011  |
| 講義名      | 生薬の科学     |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1214   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 大西 基代 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

大西 基代(薬剤師)

#### 目的

薬並びに食品の素材としての両面から主要な生薬について、どのような成分を含み、有効成分がどのように作用するのかを学び、生薬の重要性ならびに有用性を理解することに講義の目的をおく。

#### 到達目標

現在使用されている医薬品と生薬成分との関連性を理解することを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 人間力／専門知識

#### 授業計画

1. 講義の概要 生薬の概要
2. 生薬の歴史（西洋・東洋）
3. 生薬各論（附子について）
4. 生薬各論（麻黄について）
5. 生薬各論（アヘンについて）
6. 覚せい剤、危険ドラッグ、麻薬の危険性について
7. 生薬各論（キナ皮について）
8. キニーネと薬害について
9. 生薬各論（シーボルトに関する生薬について）
10. 生薬からの成分抽出と薬（アルカロイドを含む生薬）
11. 生薬からの成分抽出と薬（アルカロイドを含む生薬）
12. 生薬からの成分抽出と薬（抗腫瘍薬の開発について）
13. 生薬からの成分抽出と薬（抗腫瘍薬の開発について）
14. 生薬からの成分抽出と薬（タミフルの開発について）
15. 天然物からの医薬品検索（ジキタリスについて）

#### 成績の評価

レポート80% 授業中の提出物20% で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する

#### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

配布資料で行う。

参考資料

『資源天然物化学』（共立出版）

『読みもの 漢方生薬学』（不知火書房）

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P264012  |
| 講義名      | 東洋医学と西洋医学 |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活     |
| 科目ナンバリング | GE-1211   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 鈴木 俊明 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明〔理学療法士〕  
 金井 成行〔医師〕  
 谷 万喜子〔鍼灸師〕

#### 目的

東洋医学を融合した理学療法を意欲的に学ぶ目的で入学してきた1年生を対象に、わが国の臨床における東洋医学（湯液・鍼灸）のみならず、西洋医学を基盤とした東洋医学のあり方・可能性を十分に理解することを主眼とする。

東洋医学の基礎を学ぶことを目的としており、具体的な講義内容は、臨床の中から東洋医学の基礎概念をわかりやすく解説し、西洋医学的視点を見失わず、伝統医学の考え方を患者にどう活かすかについて毎回テーマを変えて進めていく。また、本学独自の理学療法である経穴刺激理学療法の基礎についても講義する。

#### 到達目標

東洋医学の知識の基礎、経穴刺激理学療法の基礎を把握する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／専門技術

#### 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方について）（鈴木）
2. 東洋医学概論1：東洋医学の古典、東洋医学的診断学（証のとらえ方など）（谷）
3. 東洋医学概論2：東洋医学的治療学（谷）
4. 経穴概論1：上肢の経穴（谷）
5. 経穴概論2：体幹の経穴（谷）
6. 経穴概論3：下肢の経穴（谷）
7. 経穴刺激理学療法概論1：治療法開発の歴史（鈴木）
8. 経穴刺激理学療法概論2：理論と実践1（鈴木）
9. 経穴刺激理学療法概論3：理論と実践2（鈴木）
10. 理学療法と東洋医学の関連性（鈴木）
11. 漢方薬概論1：驚異の野菜パワー（金井）
12. 漢方薬概論2：痛みに対する漢方薬（金井）
13. 漢方薬概論3：日常よくみられる疾患に対する漢方薬（金井）
14. 総合演習、まとめ（鈴木）
15. 総合演習、まとめ（鈴木）

#### 成績の評価

定期試験の結果で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

1回毎の授業内容を十分に把握すること。

テキスト

資料を配布する。

オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00 (鈴木)

月曜日 12:30～13:00 (谷)

研究室・授業用E-mail

4号館7階D724研究室・suzuki@kansai.ac.jp (鈴木)

診療・研究棟4階409研究室・kanai@kansai.ac.jp (金井)

診療・研究棟3階307研究室・tani@kansai.ac.jp (谷)

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P294011  |
| 講義名      | 評価学総論Ⅰ    |
| 講義開講時期   | 後期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 理学療法評価学   |
| 科目ナンバリング | P1-0501   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名       | 所属   |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 東藤 真理奈 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

東藤真理奈〔理学療法士〕  
山崎航〔理学療法士〕

#### 目的

適切な理学療法を実施するためには、評価によって問題点を明らかにする必要がある。評価とは何か？理学療法領域において障害をどのように評価するのかを理解する。

#### 到達目標

理学療法評価にはどのような方法があるのかを実技もまじえて学習し、円滑に評価を行えるようにするための基礎知識を習得する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 評価とは
2. 情報収集①
3. 情報収集②
4. バイタルサイン
5. 全身的観察
6. 身体計測①
7. 身体計測②
8. 運動機能①
9. 運動機能②
10. 運動機能③
11. 神経および感覚機能①
12. 神経および感覚機能②
13. 神経および感覚機能③
14. 高次脳機能
15. 日常生活活動

#### 成績の評価

定期試験85%、各授業後に行う小テスト15%で総合的に評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。



## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。理学療法評価には生理学・解剖学的知識が必須であるためしっかりと復習をしておくこと。

## テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

## 参考資料

講義中に適宜紹介する。

## オフィスアワー

月曜日 12：30～13：10（東藤）

水曜日 12：10～13：10（山崎）

## 研究室・授業用E-mail

研究室：4号館5階D513第1共同研究室

E-mail：todo@kansai.ac.jp（東藤）

w.yamazaki@kansai.ac.jp（山崎）

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P310014  |
| 講義名      | 物質と自然のしくみ |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 2         |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤  |
| 科目ナンバリング | GE-1103   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 選択        |

### 担当教員

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 中村 正信 | 指定なし |

### 担当教員（実務経験を有する資格）

中村正信

### 目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで人体に関する物理の応用を具体例として、物質と自然の法則を学ぶ。その過程で、細かい事項を暗記するのではなく、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない、見方と考え方を身につける。

### 到達目標

この授業で使用するテキストは、医療系の広範囲の学生を対象としていて、さまざま話題が展開されている。一方で高校で学ぶ物理、化学、生物、数学の内容との接続が配慮されている。しかもそれらの知識がなくてもある程度理解できるようになっている。授業では、できるだけ身の回りの事象も題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 人間力／科学的思考力

### 授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と人体
03. 力と身体のバランス
04. 力と身体のバランス
05. 運動モデルとスポーツ
06. 運動モデルとスポーツ
07. 熱とエネルギー代謝
08. 熱とエネルギー代謝
09. 圧力と循環・呼吸
10. 音と聴覚・発声
11. 光と視覚
12. 電磁気と神経・興奮状態
13. 電磁気と神経・興奮状態
14. 波と画像診断
15. 放射線と人体

### 成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

## 自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

## テキスト

「医療系のための物理学入門」(講談社)

## 参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり!基礎物理」(南山堂)

「自然科学の基礎としての物理学」(学術図書出版社)

## オフィスアワー

水曜日(17:00~18:00)

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

## 研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

|          |                  |
|----------|------------------|
| 講義コード    | 1P318012         |
| 講義名      | 保健医療福祉概論         |
| 講義開講時期   | 後期               |
| 講義区分     | 講義               |
| 基準単位数    | 1                |
| 科目分類・分野名 | 保健医療福祉とリハビリテーション |
| 科目ナンバリング | P1-0302          |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年        |
| 必修/選択    | 必修               |

#### 担当教員

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 米田 浩久 | 指定なし |

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久〔理学療法士〕

#### 目的

理学療法士は病院などの医療施設だけでなく、介護老人保健施設・特別養護老人ホームなどの福祉施設、保健所・保健センターなどの保健施設のように大変広い分野で活躍している。本科目では、医療・福祉・保健の各制度の歴史的背景やその具体的な内容、理学療法士の法的根拠を講義する。医療・福祉・保健の各領域における関連性を理解することで、理学療法士が患者へ適切なサービスが提供できることを視野に入れて出来るだけ具体的に解説する。

#### 到達目標

本教科では、理学療法を取り巻く環境への理解を十分に深め、実際に用いることのできる知識として習得することを目的とする。特に、日本の社会保障制度の概要、なかでも理学療法士がかかわることの多い社会保険の諸制度を理解するとともに、臨床で応用できる基礎知識として本教科の内容に習熟することを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 協調する力／専門知識

#### 授業計画

1. 社会保障概論
2. 理学療法士及び作業療法士法
3. 医療保険について
4. 疾患別リハビリテーション（四大疾患別リハビリテーション）
5. 疾患別リハビリテーション（その他の疾患別リハビリテーション）
6. 回復期リハビリテーション病棟入院料
7. 消炎鎮痛等処置
8. 介護保険について
9. リハビリテーションと介護保険（予防給付）
10. リハビリテーションと介護保険（介護給付）
11. 訪問リハビリテーション
12. 障害者認定の仕組みと事務手続き
13. 義肢装具の給付体系と申請方法
14. リハビリテーションと社会福祉制度
15. 社会福祉関連諸施策（国際的観点から）

#### 成績の評価

定期試験の結果で判定する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。特に、毎回の講義内容の復習を欠かさずおこなうこと。また、配布するプリントは必ずファイリングし、来る実習や国家試験対策用の資料として保管すること。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

参考資料

地域理学療法学ノート 第1版」理学療法科学学会 監修（アイペック）

「医療福祉総合ガイドブック」日本医療ソーシャルワーク研究会著（医学書院）

オフィスアワー

火曜日 12時15分～13時

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室・yoned@kansai.ac.jp

|          |           |
|----------|-----------|
| 講義コード    | 1P342011  |
| 講義名      | 理学療法概論    |
| 講義開講時期   | 前期        |
| 講義区分     | 講義        |
| 基準単位数    | 1         |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学   |
| 科目ナンバリング | P1-0401   |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年 |
| 必修/選択    | 必修        |

**担当教員**

| 職種 | 氏名      | 所属   |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 文野 住文 | 指定なし |

**担当教員（実務経験を有する資格）**

文野 住文〔理学療法士〕

**目的**

本講義では、理学療法学とはどのようなものかについて、その導入部分を教授する。内容として、理学療法の歴史的背景、理学療法士の職業内容、および具体的な理学療法としての運動療法や物理療法、病期・疾患別の理学療法について講義する。また、本講義を通して、理学療法の全体像を知るだけでなく、具体的な理学療法についても理解を深め、リハビリテーションにおける理学療法士の役割の重要性を理解することを目標とする。

**到達目標**

理学療法の目的、評価方法、具体的な理学療法の方法を学ぶことで、リハビリテーションにおける理学療法士の役割と動向、今後の課題を理解する。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**専門知識／専門技術**

**授業計画**

1. 理学療法士の歴史と背景
2. 理学療法士の業務内容について（臨床現場、国内外の動向、関連法規）
3. 障害の捉え方
4. 理学療法評価（トップダウン、ボトムアップ評価）
5. 理学療法治療学（関節可動域、筋力）
6. 理学療法治療学（感覚、ADL）
7. 理学療法治療学（物理療法）
8. 疾患別理学療法学（運動器）
9. 疾患別理学療法学（中枢）
10. 疾患別理学療法学（内部障害）
11. 病期別理学療法学（急性期）
12. 病期別理学療法学（回復期）
13. 病期別理学療法学（維持期）
14. 病期別理学療法学（在宅）
15. まとめ

**成績の評価**

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

#### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

#### テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

「運動疾患の評価と理学療法」（アイペック）

#### 参考資料

「理学療法テキストⅠ 理学療法概論」（神陵文庫）

#### オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:10～13:00

#### 研究室・授業用E-mail

研究室：4号館5階D513第1共同研究室

E-mail：bunno@kansai.ac.jp

|          |                     |
|----------|---------------------|
| 講義コード    | 1P358012            |
| 講義名      | 臨床心理学概論             |
| 講義開講時期   | 前期                  |
| 講義区分     | 講義                  |
| 基準単位数    | 1                   |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P1-0213             |
| 対象学科・学年  | 理学療法学科・1年           |
| 必修/選択    | 必修                  |

**担当教員**

| 職種  | 氏名      | 所属   |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 伊東 弘美 | 指定なし |

**担当教員（実務経験を有する資格）**

伊東 弘美 [臨床心理士、公認心理師]

**目的**

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

**到達目標**

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、対人関係を多角的な視点から捉えられるようになることを目指す。医療、福祉、教育現場での臨床実践を活かした講義・実習を通して、理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置く。コミュニケーション及び心理検査については、グループワークや実習を通して理解を深める。

**授業計画表**

**ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー**

**倫理に基づく行動力／専門知識**

**授業計画**

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

**成績の評価**

試験は行わず期末レポートにより評価する。

**定期試験、レポート等に対するフィードバック**

レポートの解説を実施する。



## 自己学習

授業1コマあたり0.5コマ(45分)相当の自己学習が必要。特に復習を重視すること。

## テキスト

授業時間内にプリント配布。

## 参考資料

「ナースのための心理学」(金子書房)

「心とかかわる臨床心理」(ナカニシヤ出版)

## オフィスアワー

月曜日 16:20~16:50

## 研究室・授業用E-mail

管理棟2階 非常勤講師控室